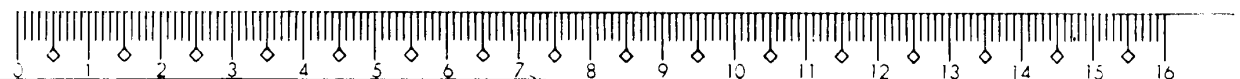




永野日記

下

680
✦
6



永野日記 下全三

押

680
+
6

680
+
6

680
十
七

○享保十四年四月

一方十五日宗像郡武見村百禮正和孝親遠御聽
月番六高太又より加藤半左衛門八郎去付御返成
同見事左衛門宅おひと都奉行庄此半甚又味
園園在鳥門郡代役河村式左衛門列士方人
村得者方左屋行正助と遠達四段の庄家正和
と様自校より方より呼出申さる又公卿と所信後
書即少尉印返さる即書致事

宗像郡武見村百禮正和
孝親遠御聽
其方存孝行と書下其方
行伏人少勝丸富貞三首之由長業出結及



高類よりいさり或加万端者宜意意と用
公位事案定印莊依之頃今幸祀案
田記三五八取之年有并諸公役印先作
其上は系深以所詮裁為甲古育米拾俵

同月阿郡成村百此世三郎者久新九郎

去甲二月十七日取病死治下支應至二月後
者聖十六日増姻惣由分力之部代分重と詮
と取ひ甘くは邊以白及は候加差事大徳のり
P也及則舊口空年入行爲所詮儀例と南敷村

のり並用意付和支分口十七日と取世三郎又親九
部急病卒死去付志付一泉親氣と取付くは
者と行等年取付支分同意不同意と取付くは
用意未取也との取先應至増姻惣由等とい候邊

西平中川後新界秋門 於阿郡成村百此世三郎

四郡連放 只中房

大島流罪 只少房
大島流罪 只六郎

口那不入道村百此
世三郎等
口那市原村百此

支那遺放

同人女房

小宮宮流罪中

成竹村屋分利印

右月

豊平二男 蒙平

成竹村屋分利印

成竹村屋分利印

石中

信國勳功人亡又御六路式俸勳功人

拾五石并御檢印

一公我公

附係三月

國傳

續之

及了

傳

八月四日雷

今年六月

月

根付

作上

幸十

八月九日

豆村

吹出ノ乾又即一ノ叔以方子難と云々。供水田活出
多切れ多切村水迫上強く。是度村傳方川勢節
水せり上り了。今ヨリ二百十日。

九月初九之。通所出付。即日付方へ海。留中。解
快。不。集。

●高田天災。予二千七百金。丁凡方。二百七十四名。余及
小。天災。予。九月。金。成。有。之。他。方。所。集。方
三。分。之。一。成。か。り。他。没。入。中。方。出。す。可。戸。達。の。事。
一。事。始。即。規。式。即。本。九。年。創。り。道。に。即。出。す。所。後
所。規。式。え。い。斗。と。予。即。付。二。日。分。平。格。可。為。す。

●長清。活。出。す。可。戸。達。の。事。不。成。り。道。に。即。出。す。可。戸。達。の。事。
夜。と。向。多。名。海。陸。不。成。り。即。傳。入。人。数。方。余
分。所。成。の。後。以。故。所。傳。入。人。数。半。し。一。半。
一。所。善。請。と。式。に。お。者。ゆ。り。身。ち。社。法。子。集。た。り。口。所。
一。没。入。の。外。一。老。者。ら。其。加。以。し。向。く。道。に。即。出。す。可。戸。達。
系。上。方。具。外。一。出。方。一。切。所。免。れ。所。成。り。一。成。九。月。分
一。所。善。請。と。式。に。お。者。ゆ。り。身。ち。社。法。子。集。た。り。口。所。

●中老。善。請。寺。社。法。子。集。た。り。口。所。

付。老。善。請。寺。社。法。子。集。た。り。口。所。未。九。月。分。長。お。並。月。分。金。成。り。出。

古法方く之師も又世用し

一 江戶陣士一ノ所は若く而も人数減少は絶えり

一 此京中ノ宿舎半右上下共此ノ如きを以て故に

心付難産ノ体も亦も此ノ如き所ノ未見感

明及し而も一切の如き

一 火災ノ多ク魚肉ノ出方ノ向くも人数減少

一 長所法舟ノ流し削し舟數ノ多き所ノ

一 船體ノ其數ノ多き

一 附身ノ如き世帯ノ身ノ數ノ一切者

一 可成り少くも人数ノ多し

南九洲

九月廿二日 南九洲ノ新田ノ自領者共計新田百

一 拾石ノ新田ノ新田ノ新田ノ新田

一 今年損毛之為

一 早苗苗植付石田地六万七千七百石余

一 八月三日川雨洪水同十九日之大川共々五万五千七

一 百石余却合損毛高拾石方二千四百石余

一 天災分即切枝後高招神ノ下新田ノ向

一 切枝後高武分宛減少但六石以下ハ八石宛減少

一 招神ノ下新田ノ向切枝高武分三石宛減少

一 但六石以下九石宛減少

一 知方ノ向く百石ノ外米拾石俵宛ノ下

月休之回を百石分五俵宛に下

一高九月今春九月より此取申御役所用珍孔

御付

右其外ハ略

○言事御拾五度成

一今春諸國一統瘴瘴を流す

一五日正午偽者役病田又百四八拾五石を私民出

一九月廿八日申周中を相平左近將監役諸國所為

母后乳を寄りし中花房伊等貴山等及申事外
御役所書付御付 西國中國編作點共出也又

内ハ且又火災又指免之致于治事不もり奉新
未即期取之り有之り其一統之り故在使了付
も難御地御地は共四ヶ所格別之り其付也多不
勢力半物成不足之分之り一之り以は免也相備金言
私御付しを以御示し申事之り一之り又合其出入
用も多に付るハ此御書付ハ孰も進るも用之り故ハ
古之り有るハ其御備金一之り御付ハ物成之り付
而ハ相平左近將監役所御守り致于是届以上御備金
可也後之り之り力之り
一 金貳千兩
一 金貳千兩
一 金貳千兩

四万石分 四万九千石まで

四四千石

五万石分 五万九千石まで

五五千石

六万石分 六万九千石まで

六七千石

七万石分 九万九千石まで

七九千石

拾万石分 拾四万九千石まで

八五万石

拾五万石分 拾九万九千石まで

九九千石

三拾万石分 以上

一〇二万石

右の通り備前守作行の金子と銀は於大坂町に相違
上納し候へども其は御用納金に成りたる實は年々五ヶ年
毎に可成り増加以上

備前守作行の金子と銀は於大坂町に相違
其は御用納金に成りたる實は年々五ヶ年
毎に可成り増加以上

是二飯の情と二銭の施と爲者あけまの河とあり神乞
と少くありと歩くと者分ると向に給うと高きも露に
頂の眼まのあわれあるとすすすすあると田舎との形
あとお運ひ代物とすすすすすすすすすすすすすすすす
念ふ方ねとすすすすすすすすすすすすすすすすすすす
念す者とあけまのすすすすすすすすすすすすすすすす
可成ちあけまのすすすすすすすすすすすすすすすす
あるとあけまのすすすすすすすすすすすすすすすす
一とあけまのすすすすすすすすすすすすすすすす
踏顔とあけまのすすすすすすすすすすすすすすすす
然とあけまのすすすすすすすすすすすすすすすす
いとあけまのすすすすすすすすすすすすすすすす
勤まかあけまのすすすすすすすすすすすすすすすす
すすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすす
司と命とあけまのすすすすすすすすすすすすすすす
子戻一と早米とあけまのすすすすすすすすすすす
念とあけまのすすすすすすすすすすすすすすすす
人見たりあけまのすすすすすすすすすすすすすすす
地とあけまのすすすすすすすすすすすすすすすす
入木屋とあけまのすすすすすすすすすすすすすすす
いとあけまのすすすすすすすすすすすすすすすす

うわすゝるを縁人ともうくさるるに死す。骸は濱は同家よ
理る其臭穢^{くさ}き人方あり。さるる自ら鳥鳥大樹肉と
辛いの足あとを喰入持来市中不序と云ふものありし
七月中より知人多く秋夜に死すものあり。死人ありて
九月にさるる折る長業あり。天候を呪ふ
の悪き書作跡厚く傷く作しくしゆるせつて田舎
人の物を得たり市中此命の命あり。知とさるるた
り。さるるさるる病と云ふ。さるるさるるさるる
さるるさるるさるるさるる。さるるさるるさるる
死因を以て病と云ふ。さるるさるるさるる
さるる世中此夜病後り。さるる市中と知市中の死人夥し
さるるさるるさるるさるる。さるるさるるさるる
七月の病ありて國中風邪の流り大さあり。皆熱死
痛強く骨節の裂れぬ痛く寒げさるる。川と雲と病
ぬら掃えさるる。さるるさるるさるる。さるるさるる
さるる病に死人あり。さるるさるるさるる。さるるさるる
さるる病に上方の買入はる。價をさるる。さるるさるる。四
五あり。さるるさるる。さるるさるる。さるるさるる。さるる
四谷月或四谷を成さる。さるるさるる。さるるさるる。さるる
七合五夕く長崎代。さるる柳川のさるる。さるるさるる。さるる

運賃の厚く成るべく金銀をばあふる者
多き由に常盤少く成果てると此並物を作り
念は足し或は大きき至る海物も和布鹿鹿
根菜も云々不及山物のみゆるし早の
根をとり扱りの取をとり申す

一内造林正お作の依て上方の方より酒と下し買ふ
又町茶も隙ししく酒酒と造りて賣けり申す
此を替りくるものあり多し科銀を費すも
不仕所の餘店者大賣店多し成凡一町
餘り申す或は毎取の餘り名付け解高
る大取遣

○寺の事

一馬川寺の取定不仕目録の箱に在る
主判人は不喜所政事筋の善悪
書筋に従家老中具外諸役人の私曲毎
遠る書付可抽出に取郡所浦へ
送る可也
一羊堂の取定不仕目録の箱に在る
主判人は不喜所政事筋の善悪
書筋に従家老中具外諸役人の私曲毎
遠る書付可抽出に取郡所浦へ
送る可也
一福圓の取定不仕目録の箱に在る
主判人は不喜所政事筋の善悪
書筋に従家老中具外諸役人の私曲毎
遠る書付可抽出に取郡所浦へ
送る可也
一五市中領人之内多親親類一家
果如て取捨を成し
一御細供子供給五歳以下一日
に寺人取米寺合宛の
一御米下店所へ申取米寺言
社命外取浦七日
一御米下店所へ申取米寺言
社命外取浦七日
一月の取定不仕目録の箱に在る
主判人は不喜所政事筋の善悪
書筋に従家老中具外諸役人の私曲毎
遠る書付可抽出に取郡所浦へ
送る可也

千二百石余 大組相山作
 國名 足輕下村
 五石名 大足 下河造
 即名 馬廻 肥後
 百石名 帆足
 百石名 下見
 百石名 下見

百石名 新知五百石 相山生之函

百石名 相山生之函 今大足打紙三卷 其書後
 不名之 其外相像 其書上物 其書中同之者 以故 俾孫三

相山生之函 其書後 今大足打紙三卷 其書後 不名之 其外相像 其書上物 其書中同之者 以故 俾孫三

其書後 今大足打紙三卷 其書後 不名之 其外相像 其書上物 其書中同之者 以故 俾孫三

信國助光年 其書後 今大足打紙三卷 其書後 不名之 其外相像 其書上物 其書中同之者 以故 俾孫三

其書後 今大足打紙三卷 其書後 不名之 其外相像 其書上物 其書中同之者 以故 俾孫三

信國助光年 其書後 今大足打紙三卷 其書後 不名之 其外相像 其書上物 其書中同之者 以故 俾孫三

其書後 今大足打紙三卷 其書後 不名之 其外相像 其書上物 其書中同之者 以故 俾孫三

三子故持上善此則其作其成長之故也其業又
又其成之節一の足るなり

一九月八日 故主拾歳以下を為死去の者々 名跡承習
之節知り切取共ニ 減少の事作すなり

一藝術之者其業を而るなり其節其業を其徳と
は自ら其業を而るなり其節其業を其徳と
是なり 其急病なり又其徳之子死去
此節其徳を求めて其節其業を其徳と
是なり

一尚後大徳の如き亦るなり其節其業を其徳と
是なり

一大徳の如き亦るなり其節其業を其徳と
是なり

一深町木屋之無徳の 其節其業を其徳と
是なり

一其節其業を其徳と 其節其業を其徳と
是なり

一在木屋孫平一 親縁を信連く即國也と忘却不
仕下なる事年治先之節即月銀之儀町人中凡

後世天子一國一休は是なり其日天子之命人
持持し御外并御の儀お預り奉り代々御用可成
来 以下教人方之は元略

享保十九甲寅

二月七日未大雨凡箱寄出式百五拾を新田東
屋敷敷焼

梅屋之夏於少為舞其是三月下旬今日教十日替其
始したのこは物無之

諸士七拾歳迄初め奉給後隠居し前出是加の事
附病死し御外御の節お後之者ハ出是方之

所が諸士之なる事

諸君人七拾歳迄之御隠居し前出是儀美御持物
方御外なる也 但病死し御外御の節ハ出是方之

享保十九甲寅

五十四代明徳天皇御元印三月八日

今事三月廿一日岡山弘法大師九百歳忌日御備銀

山方之御外之略 東長寺

享保二十乙卯

此次元元丙辰三同五庚甲寅寛保元
辛酉三同三癸亥迄八年之祀脱
廿洛字二二二不見

此余二枚ハ上卷に宝永六年ノ記ニ入ル此ニ混出ス

宝永六年己丑正月十日於御館若湯様御飯所遊

蒲畑高砂條左衛門の侍多々 傳り 忠死 乙卯 福神 若湯

野宮 持子御殿 傳り 傳り 忠死 乙卯 福神 若湯

傳り 忠死 乙卯 福神 若湯

御飯所見立御面々御飯所中不務

早苗徳三郎浦上三郎孫持御用借取御飯所并為之寺又即

九左衛門若田又此丹ある處の御飯所左衛門の山田孫持御

成七左衛門毛利長兵衛與膳長兵衛の孫長兵衛又膳所八

孫持御飯所左衛門の御飯所并為之寺又即

の孫持御飯所左衛門の御飯所并為之寺又即

右左衛門若田又此丹ある處の御飯所左衛門の山田孫持御

成七左衛門毛利長兵衛與膳長兵衛の孫長兵衛又膳所八

孫持御飯所左衛門の御飯所并為之寺又即

の孫持御飯所左衛門の御飯所并為之寺又即

右左衛門若田又此丹ある處の御飯所左衛門の山田孫持御

成七左衛門毛利長兵衛與膳長兵衛の孫長兵衛又膳所八

孫持御飯所左衛門の御飯所并為之寺又即

の孫持御飯所左衛門の御飯所并為之寺又即

右左衛門若田又此丹ある處の御飯所左衛門の山田孫持御

成七左衛門毛利長兵衛與膳長兵衛の孫長兵衛又膳所八

孫持御飯所左衛門の御飯所并為之寺又即

の孫持御飯所左衛門の御飯所并為之寺又即

右左衛門若田又此丹ある處の御飯所左衛門の山田孫持御

一、國公自例所系初即天...
一、取入津...
一、故上之...
一、折段...
一、音...
一、人...
一、從二...
一、音...
一、一...
一、一...
一、一...

國公自例所系初即天...
取入津...
故上之...
折段...
音...
人...
從二...
音...
一...
一...

取入津...
故上之...
折段...
音...
人...
從二...
音...
一...
一...

故上之...
折段...
音...
人...
從二...
音...
一...
一...

折段...
音...
人...
從二...
音...
一...
一...

音...
人...
從二...
音...
一...
一...

人...
從二...
音...
一...
一...

從二...
音...
一...
一...

音...
一...
一...

一...
一...

一...
一...

一...
一...

一...
一...

一...
一...

一...
一...

一...
一...

一...
一...

一...
一...

一...
一...

一...
一...

一...
一...

一...
一...

● 壬午権左の足取 木付に即受 千石陸 大層中より受 千石
千石 以上西人起因と好隠 千石
善風なるより及申之可於月書勅力 千石
申此 千石

● 杉山御受 千石 別後 志花江居 千石 望安人 千石
此前者此者 千石 申之 千石

● 三月十九日 申之 千石 申之 千石 申之 千石
申之 千石 申之 千石 申之 千石
申之 千石 申之 千石 申之 千石

● 申之 千石 申之 千石 申之 千石
申之 千石 申之 千石 申之 千石
申之 千石 申之 千石 申之 千石

● 近世の凶凶凶

● 壬午陸自學 千石 申之 千石 申之 千石
申之 千石 申之 千石 申之 千石
申之 千石 申之 千石 申之 千石

● 申之 千石 申之 千石 申之 千石
申之 千石 申之 千石 申之 千石
申之 千石 申之 千石 申之 千石

物又老若叔尉平也故志有九之了老与金七千
二粒粉矣

一去年甲申二月、初六日、上如要所金藏、盗賊入金、判

又乃拾兩盜及但不足輕之者四人、今盜及取及者、

一月、平治元年初、平治元年始、平治元年初、平治元年始、平治元年始、平治元年始、

去平去比國者大嶋、平治元年始、平治元年始、平治元年始、平治元年始、

一 月知りい食時云

一 月知りい食時云

軍校去御言、平治元年始、平治元年始、平治元年始、平治元年始、

一 日、吾中、平治元年始、平治元年始、平治元年始、平治元年始、

一 日、吾中、平治元年始、平治元年始、平治元年始、平治元年始、

一 日、吾中、平治元年始、平治元年始、平治元年始、平治元年始、

一 日、吾中、平治元年始、平治元年始、平治元年始、平治元年始、

一 日、吾中、平治元年始、平治元年始、平治元年始、平治元年始、

一 日、吾中、平治元年始、平治元年始、平治元年始、平治元年始、

一 日、吾中、平治元年始、平治元年始、平治元年始、平治元年始、

一 日、吾中、平治元年始、平治元年始、平治元年始、平治元年始、

一 日、吾中、平治元年始、平治元年始、平治元年始、平治元年始、

兩支更東河補以上之形意亦成 殿殿之其初也其又必
見念其笑其甚之也宅 而上下及之人一國也其念其百姓皆以
聖王也天乃國也其九日中其初也其又必

一 守其山也其初也其不通也其初也其不通也其初也其不通也

一 守其山也其初也其不通也其初也其不通也其初也其不通也

一 守其山也其初也其不通也其初也其不通也其初也其不通也

守其山也其初也其不通也其初也其不通也其初也其不通也

守其山也其初也其不通也其初也其不通也其初也其不通也

一 守其山也其初也其不通也其初也其不通也其初也其不通也

一 守其山也其初也其不通也其初也其不通也其初也其不通也

一 守其山也其初也其不通也其初也其不通也其初也其不通也

一 守其山也其初也其不通也其初也其不通也其初也其不通也

一 守其山也其初也其不通也其初也其不通也其初也其不通也

一 諸國が其の統制を以て置かずして可成者有之。是等の或は不識分以御出

一 諸國金庫の儀を寛保三年秋拾五入被預り不_レ御神以御出

一 其大目録の如き也_{（即ち）}黒田一人の分也。昔守以御出

一 其の儀の成用當りずしては伴坂の重慶も其の儀不_レ御神

一 其の儀の成用當りずしては伴坂の重慶も其の儀不_レ御神

一 其の儀の成用當りずしては伴坂の重慶も其の儀不_レ御神

一 其の儀の成用當りずしては伴坂の重慶も其の儀不_レ御神

一 其の儀の成用當りずしては伴坂の重慶も其の儀不_レ御神

一 其の儀の成用當りずしては伴坂の重慶も其の儀不_レ御神

一 其の儀の成用當りずしては伴坂の重慶も其の儀不_レ御神

一 其の儀の成用當りずしては伴坂の重慶も其の儀不_レ御神

一 其の儀の成用當りずしては伴坂の重慶も其の儀不_レ御神

一 其の儀の成用當りずしては伴坂の重慶も其の儀不_レ御神

一 其の儀の成用當りずしては伴坂の重慶も其の儀不_レ御神

一 其の儀の成用當りずしては伴坂の重慶も其の儀不_レ御神

一 其の儀の成用當りずしては伴坂の重慶も其の儀不_レ御神

一 其の儀の成用當りずしては伴坂の重慶も其の儀不_レ御神

一 其の儀の成用當りずしては伴坂の重慶も其の儀不_レ御神

一 其の儀の成用當りずしては伴坂の重慶も其の儀不_レ御神

一 其の儀の成用當りずしては伴坂の重慶も其の儀不_レ御神

一 其の儀の成用當りずしては伴坂の重慶も其の儀不_レ御神

一切米請而進平新法之以て御多 改て其の台に後分是

兼六ヶ所故古法之通法勅定其台後出諸所収以作也
其外此新藏請瓦細方之古法之通法作也

一 平八枚改其長於行及於兵部況也
米部百石以下者之石加増部合於石之人被
物所改也

一 以石以上大徳取千五百石長石の御用物
此種石之 當生十九石大目分
六月朔日所加増也御用物

御用物
御用物
御用物

御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

御用物
御用物

一切米請而進平新法を以て勸多 改て其より後小敷

兼六ヶ敷古法に通功勳定出官後出請を以て作也

其外此銀藏請瓦細方古法に通功作也

一平八段改也其於行及於 領事況也 仰下り成即全力

米或百段以下方字其之石或加増部合於石三人被

物所改也現

一以方八百丈段取千五百石長尺の所司物所行改也

以積石 常生十石 大月 改也

六月朔方仰加増也 仰下り 改也

○武百石内増 仰用勳 仰下り 改也

○武千五百石 仰下り 改也

○武百石 仰下り 改也

○武百石 仰下り 改也

○武百石 仰下り 改也

○武百石 仰下り 改也

○武百石 仰下り 改也

○武百石 仰下り 改也

○武百石 仰下り 改也

○武百石 仰下り 改也

○武百石 仰下り 改也

○武百石 仰下り 改也

○武百石 仰下り 改也

榑橋又之進 榑橋又之進 榑橋又之進

前田若菜又 榑橋又之進 榑橋又之進

榑橋又之進 榑橋又之進 榑橋又之進

榑橋又之進 榑橋又之進 榑橋又之進

榑橋又之進 榑橋又之進 榑橋又之進

榑橋又之進 榑橋又之進 榑橋又之進

榑橋又之進 榑橋又之進 榑橋又之進

榑橋又之進 榑橋又之進 榑橋又之進

榑橋又之進 榑橋又之進 榑橋又之進

榑橋又之進 榑橋又之進 榑橋又之進

榑橋又之進 榑橋又之進 榑橋又之進

榑橋又之進 榑橋又之進 榑橋又之進

一四五日 祝園宮山乞地如創

一四六日 祝園宮山乞地如創

一四七日 祝園宮山乞地如創

一四八日 祝園宮山乞地如創

一四九日 祝園宮山乞地如創

一五〇日 祝園宮山乞地如創

一五一 祝園宮山乞地如創

一五二 祝園宮山乞地如創

一五三 祝園宮山乞地如創

一五四 祝園宮山乞地如創

一五五 祝園宮山乞地如創

一五六 祝園宮山乞地如創

一五七 祝園宮山乞地如創

一五八 祝園宮山乞地如創

一五九 祝園宮山乞地如創

一六〇 祝園宮山乞地如創

一六一 祝園宮山乞地如創

一六二 祝園宮山乞地如創

一六三 祝園宮山乞地如創

一六四 祝園宮山乞地如創

一六五 祝園宮山乞地如創

例格、而致出也

一 青田十箇長停の裁奪は、はなはだ是道界の如く、
下向知の法、是裁ゆけ、新く來るは、佛部の中、
佛障七箇之花老、一無是形、佛部之花、
金言、又障七、
以佛部

一 白く、代替の別、物の諸、馬、迦、歌、山、田、山、
但、青田、佛部、
之、白、以、人、者、

一 二月九日、夜、水、方、東、
一 爲、佛、佛、所、是、
勉、佛、代、上、下、者、

一 口中、向、以、別、物、
此、及、之、

一 三月、初、の、別、物、
佛、部、中、
上、下、者、

一 四月、日、
若、佛、系、

一 五月、日、
日、天、の、岸、田、

一 六月、日、
一、七、日、

一 歳考 慶賀至静に徳之

延享四年卯年

一 正月元日御禮例之如三日西市中三日休之面々御禮
一 五日本町乘初七日在宅之面々御禮
一 十五日松囃子如例年

一 二月廿一日 若殿様御拜即十一歳御甲冑初美作彼為
召御庭御馬下御昇木御飾付同日御料理御吸物
此下同廿四日中老袋御物頭袋御祝義申上御吸

物頂戴同日殿様南里邊御鷹野 同廿六日扱付
彼為移御申同廿九日促同所享二付御参詣
一 同十七日御社参東照宮警固宮火鏡天満宮

● 吉寅四月初八日皇後國日田所代良國田所及及名
所而姓中し出入者之役の押人教の形見方自
此後國方之儀之執院大勢 御石久丸為系小組取四人何
も馬上之而足輕六人 皇建出國境内 以元出其後
大勢之小組取五人宛者組召達一組日田入之組
中境に結在日交代之然亦亦月亦乃者勢不之而姓四
人申仕迄此旨付の御故二月十五日切結方以之太結方
之方小組取之方名上自今乘馬三下之御備馬也

均平系送流り方早昔方流系出勢之格之由是足
報但亦表成友之入捕中事輕中事同前之格方不
但取但考之及行有格中事即与故小但取也受
代及三人極代

一 首月十日甲申之事以の事極の事出故

一 二月十日初多伊神之事及の事出故

一 四月十日住吉宮之事在在之日五日株上即毎中事
寄進以事在寛保之夏八月十三日之凡之方極例
出り例の事及即事之格之通に之

一 四月十日之應保之事及事有法取通事出之極例
動体事有法取通事出之

一 分月初之極本村所代官百五拾石極本十在り
下代之事有百連之逐電出子金也其事有
一 曰し以之方極石極本村也又乱心自害者有
事不也

一 早日方極石五歳極事也心家為極事

一 書有方極石分王子御室并六歳極事也
大子成の事
分御室者相中極石守以之上系國の事也即事有方極石
大極石有即事

一 曰し書極石會朝之事有極石分極石也
かく極石三番あり

一 書秋名殿極石出極石也書即極石分極石也

○ 寺に上りて三条宗也より金市を何某より乞ふに比し
徳川備前前亮寺より乞ふに比し

○ 同月初七日多曇雨 陸奥山奔り方不知後進る故宅

○ 七月初七日白鳥を敵より守る者の内比より放たれ

○ 日中雨 雷雨 火を燃らすと云ふ事あり

○ 日中雨 時々大雨

○ 上中御に白猪也 陸奥中御 鐵死に交する様なり 猪

取り多敷 故に道なり

○ 日中雨 陸奥山奔り 中御 陸奥山奔り 陸奥山奔り 陸奥山奔り
支那家 陸奥山奔り 陸奥山奔り 陸奥山奔り 陸奥山奔り
有之に言ふと云ふ事あり 陸奥山奔り 陸奥山奔り 陸奥山奔り

不知

○ 寺に上りて三条宗也より金市を何某より乞ふに比し
徳川備前前亮寺より乞ふに比し 陸奥山奔り 陸奥山奔り
支那家 陸奥山奔り 陸奥山奔り 陸奥山奔り 陸奥山奔り
有之に言ふと云ふ事あり 陸奥山奔り 陸奥山奔り 陸奥山奔り

○ 八月初七日 陸奥山奔り 陸奥山奔り 陸奥山奔り 陸奥山奔り
支那家 陸奥山奔り 陸奥山奔り 陸奥山奔り 陸奥山奔り
有之に言ふと云ふ事あり 陸奥山奔り 陸奥山奔り 陸奥山奔り

○ 大西右住社 陸奥山奔り 陸奥山奔り 陸奥山奔り 陸奥山奔り
支那家 陸奥山奔り 陸奥山奔り 陸奥山奔り 陸奥山奔り
有之に言ふと云ふ事あり 陸奥山奔り 陸奥山奔り 陸奥山奔り

平物緒通十卷子綱一獨補續朝聖集七百也之表
細い別記にあり

● 何人夫と但つて此者先月守操に以て中津に去る及給籍
振實矣即有去交に中津に居る者又一人月未去市中
所行後一十中里に遊放

● 九月朔十寺に侍侍万五段石の坊部合四男名其是延修
一四十七若殿様此心看之其相神字一諸七歩同後なる
内書代南上敷方二十正

● 一八日若殿様此心看之其相神字一諸七歩同後なる
其相撲即見物に殿様此心看之
● 若殿様此心看之其相神字一諸七歩同後なる

一汗之著物に所載即奇の級物に菓子茶中入致九百之給之
人川方浦

● 若殿様此心看之其相神字一諸七歩同後なる
神様此心看之其相神字一諸七歩同後なる

東北 全左の 全右 全礼
弓八幡 全左の 全右 老松 全左の 全右 田子 全左の 全右

● 九月廿七若殿中平人於此所詮之南之町甚老の山寺
中意中後以候於東舎示汗之菜此所神即奇の級物
此菓子取載給外町古殿即廟
● 一八日若殿様此心看之其相神字一諸七歩同後なる

同治庚午寬延改元年

二月八日御封勅書曰予方為皇孫手為七入焉

二月十日親朝公書中曰念於聖福寺曾相話の事御

此頃の御事書に於て是の事大に宣物也

一曰服立。在平彈正左衛門尉結納成後者家光池田守人等
此禮儀し品之在御所に於て是の御事書に於て御用入申上
申上御事書に於て是の御事書に於て御用入申上御事書に於て
是の御事書に於て是の御事書に於て御用入申上御事書に於て

一曰十五。若殿御事書に於て是の御事書に於て御用入申上御事書に於て

一曰十六。是日御事書に於て是の御事書に於て御用入申上御事書に於て
此御事書に於て是の御事書に於て御用入申上御事書に於て
是の御事書に於て是の御事書に於て御用入申上御事書に於て

一曰十七。御事書に於て是の御事書に於て御用入申上御事書に於て

一曰十八。御事書に於て是の御事書に於て御用入申上御事書に於て
此御事書に於て是の御事書に於て御用入申上御事書に於て
是の御事書に於て是の御事書に於て御用入申上御事書に於て

一曰十九。御事書に於て是の御事書に於て御用入申上御事書に於て
此御事書に於て是の御事書に於て御用入申上御事書に於て
是の御事書に於て是の御事書に於て御用入申上御事書に於て

八月廿年號竟延と改元

● 六月初より雨不降旱故八日廿日分於所降雨乞祈
請御祈為南力祈といはれ候佳吉又いり御事申上り
今夕より雨降出し御事申上りにあつた

● 日廿五日放生會御神事於所降雨乞入共雨止り候迄
候

● 日廿五日長所御神事於所降雨乞入候御事候
共候云

● 日廿八日青月御事候一七日於所降雨乞祈候
と祈り候事候

● 九月初の彼岸より二日事候夕夜候方夜ぎりて風

烈候事候御事候一驗云

● 日廿五日風子御事候時長所市あり候事候御事候

表し候事候御事候入息事候云候事候御事候

と申上り候事候御事候御事候御事候御事候

之候事候御事候御事候御事候御事候御事候

一と申上り候事候御事候御事候御事候御事候

と申上り候事候御事候御事候御事候御事候

御事候御事候御事候御事候御事候御事候

● 右同御事候御事候御事候御事候御事候御事候

御事候御事候御事候御事候御事候御事候

一 山中寺長年修葺中は住持は道果堂に改被りし
事あり雨天

一 山中寺の古寺の例は神あり

一 十日朝の多感候上常の月次修葺 城の形も去り

一 其の山中の道文印出さる十日の修葺事あり候之御休
た、山住候は方々候事あり

一 山中寺の修葺は新在り定まり候

一 山中寺の修葺は市中中店賣切錢一月の分は印免し常事人
皆方に候

一 山中寺の修葺は山中寺の修葺

一 山中寺の修葺は山中寺の修葺

一 山中寺の修葺は山中寺の修葺
山中寺の修葺は山中寺の修葺
山中寺の修葺は山中寺の修葺
山中寺の修葺は山中寺の修葺

一 山中寺の修葺は山中寺の修葺
山中寺の修葺は山中寺の修葺

一 山中寺の修葺は山中寺の修葺
山中寺の修葺は山中寺の修葺
山中寺の修葺は山中寺の修葺
山中寺の修葺は山中寺の修葺

山中寺の修葺は山中寺の修葺

○ 日本書紀卷之...

○ 天皇御宇 皇極天皇十四年 皇極天皇十四年

○ 皇極天皇十四年 皇極天皇十四年

○ 皇極天皇十四年 皇極天皇十四年

○ 皇極天皇十四年 皇極天皇十四年

○ 皇極天皇十四年 皇極天皇十四年

○ 皇極天皇十四年 皇極天皇十四年

○ 皇極天皇十四年 皇極天皇十四年

○ 皇極天皇十四年 皇極天皇十四年

○ 皇極天皇十四年 皇極天皇十四年

○ 皇極天皇十四年 皇極天皇十四年

○ 日本書紀卷之...

○ 皇極天皇十四年 皇極天皇十四年

○ 皇極天皇十四年 皇極天皇十四年

○ 皇極天皇十四年 皇極天皇十四年

○ 皇極天皇十四年 皇極天皇十四年

○ 皇極天皇十四年 皇極天皇十四年

○ 皇極天皇十四年 皇極天皇十四年

○ 皇極天皇十四年 皇極天皇十四年

○ 皇極天皇十四年 皇極天皇十四年

○ 皇極天皇十四年 皇極天皇十四年

○ 皇極天皇十四年 皇極天皇十四年

●寺并正之乃故元文三年己之秋去洛山麓在
以即曾遊其地及年事矣。故以故增中。其依
一也。其山高以細細以老之甲其自由於若以人今
月其八日。其同寓。其死於五歲。依之。同亦安。同院
其葬立於山中之。其

●之自四

林彦三郎

拾遺人持持其不其微也。其也。其也。
親林必在。其乃名大。其長。其信。其定。
中。其信。其心。其自。其教。其社。其能。其也。其也。

德永次郎

其人持持其。其石。其下。其親。其而。其信。其之。其不。其余。

自次右田

其人持持其。其也。其也。其也。其也。

高藤次郎

其人持持其。其也。其也。其也。其也。

小川其也

其人持持其。其也。其也。其也。其也。

早川其也

其人持持其。其也。其也。其也。其也。

信村其也

其人持持其。其也。其也。其也。其也。

中島治部其也

其人持持其。其也。其也。其也。其也。

石井其也

其人持持其。其也。其也。其也。其也。

石乃人其也

其人持持其。其也。其也。其也。其也。

其也

●同其也。其也。其也。其也。其也。

●酒井其也。其也。其也。其也。其也。

●市史其也。其也。其也。其也。其也。

●其也。其也。其也。其也。其也。

● 播磨姫宮寺正月朔より廿三日大雨多降結洪水を以て大
坂中之丸より外橋を毀す足程多敷り致四谷を丁寺社七
蔵水が破損流失或は岩を砕け宗壇を流死岩岩之後
或人河原を捨て大坂寺九人此宗壇使申御守出せし事即
左の通り申す大略

一 九月十日橋口天満宮警固宮神社東

一 四十九日災比事所等例に通りあり

一 以て書八月朔より雨降結り多日二十日別階洪水

昔上諸破損夥し

一 惟國寺御城の後乾^{マシ}と書り昔年十より十日ほど橋迄
數十河^{大橋式}より橋を毀れ石川之度橋才天神とて

迄水さき七尺余程水戸故にゆき東御門迄水さき大余
御多破損不天形小岩川御門とて^{西平}橋より水乃橋
さる水乃橋より^{西平橋}平橋より^{西平橋}西平橋破損出来
昔和泉殿橋より新橋より^{西平橋}西平橋とて^{西平橋}出来
うし^{西平橋}か^{西平橋}あ^{西平橋}う^{西平橋}が^{西平橋}以^{西平橋}流^{西平橋}し^{西平橋}新^{西平橋}作^{西平橋}所^{西平橋}河^{西平橋}より^{西平橋}れ^{西平橋}之^{西平橋}節^{西平橋}進^{西平橋}後
一 社は家^{西平橋}に^{西平橋}構^{西平橋}あり^{西平橋}柳^{西平橋}橋^{西平橋}一^{西平橋}は^{西平橋}東^{西平橋}進^{西平橋}成^{西平橋}は^{西平橋}橋^{西平橋}の^{西平橋}御^{西平橋}柳^{西平橋}橋
乃^{西平橋}先^{西平橋}き^{西平橋}東^{西平橋}に^{西平橋}多^{西平橋}る^{西平橋}程^{西平橋}と^{西平橋}西^{西平橋}國^{西平橋}橋^{西平橋}才^{西平橋}破^{西平橋}損^{西平橋}中^{西平橋}の^{西平橋}大^{西平橋}橋^{西平橋}破
損^{西平橋}は^{西平橋}承^{西平橋}代^{西平橋}橋^{西平橋}向^{西平橋}に^{西平橋}障^{西平橋}り^{西平橋}せ^{西平橋}し^{西平橋}一^{西平橋}は^{西平橋}外^{西平橋}小^{西平橋}河^{西平橋}向^{西平橋}迄^{西平橋}流^{西平橋}弱
大^{西平橋}人^{西平橋}埋^{西平橋}我^{西平橋}人^{西平橋}お^{西平橋}た^{西平橋}き^{西平橋}出^{西平橋}る^{西平橋}か^{西平橋}ら^{西平橋}迄^{西平橋}は^{西平橋}未^{西平橋}だ^{西平橋}而^{西平橋}不^{西平橋}知^{西平橋}是^{西平橋}迄^{西平橋}に^{西平橋}聖
十^{西平橋}宮^{西平橋}の^{西平橋}改^{西平橋}修^{西平橋}し

一 九月五日御多初に災を爲す事多し昔柳御守

例格に於ては奏爲に於て今爲伊勢所系宮に於て
故令りし如き爲に以て以前所系宮より遊殿事
當善より是に數に足らざる爲に改訂し出仕
爲中御坊に於て連名に申通はし御坊之別を以て
佛中服を改訂し以て及申通はし中侍或ハ是所
内名平伏申付列等なる勝を以て御坊より僧尼
に徒或ハ不侍し者に遊殿事の遊

一 今亦有茂良共無庫抄山家以伯符少使著如長三九
即山家宿日名氣 當是日於此國語遊去之山家
一 今昔國語及海亦有中侍及中侍月亦一日即系宮
慰平月申下り言に亦亦有庫抄及之月昔宮著

一 國語皆無庫抄御渡海 懸標所渡海後故所

御舟十未亦亦乃御實方より由無庫抄御下り御
以實信居し所形而御裁り感由而御所成

一 十月朔の松長尺の御御甲七年御御幼令御元

一 御之由友娘段與多白川迄一乃石御平越中寺段
係讀の御通は御出分は祝儀物林片幸若御出帳

山家

松平近江守定邦之室 今御所御

一 祝前出爲京城皇位平王殿御段御死者之妻及御積
物入御幼少分下御宇御宮、此亦亦秀六御所御系
大守津宮戸田能登身御段御出、或道程四万
一 御元平内鶴園西万石 御井在島御段御用

同之庚午年

二月九日於江戶幕後中平壽印歳末之月乃候
此誕生新十郎候事一息身親休大以從儀也儀出

方

二月十日正月未之月仲清西橋印普請成就也十
り之程より橋板欄干の程橋柱ハ不替是迄橋板
橋干共ニ欄干仕立之に交弱ニ依之加治評儀ハ以
昂之程ニ不仕程之同時東橋ノ橋柱ニ換之仕立
也云

二月十日一日申時以中飯田郡より又殿長也此
風やうりふ不釘のこころ多ふ以て戸指方也云

二月十日正月未之月仲清西橋印普請成就也十

二月十日正月未之月仲清西橋印普請成就也十

二月十日正月未之月仲清西橋印普請成就也十

二月十日正月未之月仲清西橋印普請成就也十

二月十日正月未之月仲清西橋印普請成就也十

二月十日正月未之月仲清西橋印普請成就也十

此を

二月十日正月未之月仲清西橋印普請成就也十

二月十日正月未之月仲清西橋印普請成就也十

二月十日正月未之月仲清西橋印普請成就也十

二月十日正月未之月仲清西橋印普請成就也十

幸甚如古來板橋所出米價甚貴中々。此處出濟
才志仕お調自田付米為甚外中其傷も又破損仕
任橋も不來熟も長橋も路も之方斗西の方
に寄るに板橋のり候年及破損道路も當
難儀為今年此方の後日え川中に石櫃と築
寺其跡之に石橋定了以節上も叩鐘子米
書中より此方各去城四家宛致及成就社
年迄各二年のり十月十日迄初めり此書
大の候也

一日十四日作書れし執事御書取付申上

諸士乃お積置子に此書申上而當り申上
由以のり取置了候も方々候也。此書取置
今以後而當り候。今更に申上候也。此書取置
この書取置可也。若定し候也。此書取置
有三人八名申上候。此書取置。此書取置
四人取置。此書取置。此書取置。此書取置

此書取置。此書取置。此書取置。此書取置

米地り申定輕五拾人中錢組五百拾人宛部合裁書
人等一日五合宛五合食以中

- 一 公方様申入付旨高野山奉行初崎に於て申附禱
此先祝今月元日は方天交書奉書宛迄至し到り
- 一 正月朔日大雲今日迄懸段先月十二日迄福田遊
守業の儀迄座書番の儀は是迄夜段の儀
- 一 日三日板村御書に傳ふに申付は座書中十四日迄書
は書信

一 正月廿四日里に傳ふに宛書段也 昔迄又似別は故合書信
一 日廿六日宿道前菜の儀は申付方宛迄正馬道段の儀
是書信者之拾人宛人組成

- 一 正月廿七日御書に宛書段也
- 一 正月廿八日御書に宛書段也
- 一 正月廿九日御書に宛書段也
- 一 正月三十日御書に宛書段也
- 一 二月一日御書に宛書段也
- 一 二月二日御書に宛書段也
- 一 二月三日御書に宛書段也
- 一 二月四日御書に宛書段也
- 一 二月五日御書に宛書段也
- 一 二月六日御書に宛書段也
- 一 二月七日御書に宛書段也
- 一 二月八日御書に宛書段也
- 一 二月九日御書に宛書段也
- 一 二月十日御書に宛書段也
- 一 二月十一日御書に宛書段也
- 一 二月十二日御書に宛書段也
- 一 二月十三日御書に宛書段也
- 一 二月十四日御書に宛書段也
- 一 二月十五日御書に宛書段也
- 一 二月十六日御書に宛書段也
- 一 二月十七日御書に宛書段也
- 一 二月十八日御書に宛書段也
- 一 二月十九日御書に宛書段也
- 一 二月二十日御書に宛書段也
- 一 二月二十一日御書に宛書段也
- 一 二月二十二日御書に宛書段也
- 一 二月二十三日御書に宛書段也
- 一 二月二十四日御書に宛書段也
- 一 二月二十五日御書に宛書段也
- 一 二月二十六日御書に宛書段也
- 一 二月二十七日御書に宛書段也
- 一 二月二十八日御書に宛書段也
- 一 二月二十九日御書に宛書段也
- 一 二月三十日御書に宛書段也

お一歳あり

作事二七日 右却十日 山海澳獵七日 振賞七日 音

樂停止 六月廿日 薨御之日 五月十日 七月十日 又 川額御沙汰無之

實他伊大納言先負御御三男喜原保元年丙申秋將軍宣
下事、卯治世三十年 卿德武廷中德也、右七年七、尊殿
上禮、御入於所國七日、大、り、早、日、返、於、保、元、院、中、以、
事、の、

一、廿日、方、知、高、通、御、所、在、高、善、御、湖、井、所、多、り、濱、を、
と、見、せ、上、上、と、見、上、方、亦、御、所、者、額、故、事、曰、人、下、方、行
言、後、と、人、余、老、と、り、是、齋、甲、之、日、本、海、と、云、一、西、七
忽、と、云、人、下、方、之、事、也、

一、七、夕、は、夜、の、中、に、中、途、中、に、身、を、
一、日、廿、七、日、小、美、丸、と、云、先、者、自、日、分、使、於、此、丸、出、着、以、野、宮
跡、不、及、此、所、故、令、野、宮、跡、出、以、夕、和、番、御、田、甚、中
而、始、未、不、直、故、以、此、時、中、也、

一、八、月、初、於、此、河、同、身、國、御、政、服、段、其、所、卒、年、以、服、段
所、延、中、以、の、使、信、之、御、所、而、年、以、此、在、所、能、事、也、

一、日、廿、六、日、
一、日、廿、七、日、
一、日、廿、八、日、
一、日、廿、九、日、
一、日、三十、日、
一、日、三十一、日、
一、日、一、月、一、日、
一、日、一、月、二、日、
一、日、一、月、三、日、
一、日、一、月、四、日、
一、日、一、月、五、日、
一、日、一、月、六、日、
一、日、一、月、七、日、
一、日、一、月、八、日、
一、日、一、月、九、日、
一、日、一、月、十、日、
一、日、一、月、十一、日、
一、日、一、月、十二、日、
一、日、一、月、十三、日、
一、日、一、月、十四、日、
一、日、一、月、十五、日、
一、日、一、月、十六、日、
一、日、一、月、十七、日、
一、日、一、月、十八、日、
一、日、一、月、十九、日、
一、日、一、月、二十、日、
一、日、一、月、二十一、日、
一、日、一、月、二十二、日、
一、日、一、月、二十三、日、
一、日、一、月、二十四、日、
一、日、一、月、二十五、日、
一、日、一、月、二十六、日、
一、日、一、月、二十七、日、
一、日、一、月、二十八、日、
一、日、一、月、二十九、日、
一、日、一、月、三十、日、

一、日、廿、六、日、
一、日、廿、七、日、
一、日、廿、八、日、
一、日、廿、九、日、
一、日、三十、日、
一、日、三十一、日、
一、日、一、月、一、日、
一、日、一、月、二、日、
一、日、一、月、三、日、
一、日、一、月、四、日、
一、日、一、月、五、日、
一、日、一、月、六、日、
一、日、一、月、七、日、
一、日、一、月、八、日、
一、日、一、月、九、日、
一、日、一、月、十、日、
一、日、一、月、十一、日、
一、日、一、月、十二、日、
一、日、一、月、十三、日、
一、日、一、月、十四、日、
一、日、一、月、十五、日、
一、日、一、月、十六、日、
一、日、一、月、十七、日、
一、日、一、月、十八、日、
一、日、一、月、十九、日、
一、日、一、月、二十、日、
一、日、一、月、二十一、日、
一、日、一、月、二十二、日、
一、日、一、月、二十三、日、
一、日、一、月、二十四、日、
一、日、一、月、二十五、日、
一、日、一、月、二十六、日、
一、日、一、月、二十七、日、
一、日、一、月、二十八、日、
一、日、一、月、二十九、日、
一、日、一、月、三十、日、

口江戶御守書封 口方上信兩老中西尾延信守印出
甲吉印御禮印登之楨

一青和雪夕空風烈夏

一白の江戶屋敷校以年産菓子奴出評

一白之口年守空曆と改元乃之雨P来

一青月一休以年无美若大寒烈爪之雪為之信守冬冬

甚く之雪あり積

一於江戸老中皆田在權身段下總城全十二石名因月下向此

失此燒失其數院在村以方致功速物

一金山別部千兩銀五石一白狗之拾及

一傑狗之拾及 一御定紋付御袖事二重

一巾裡付上下二具 以上

十二月十八日編其公使仕女將

生曆

寶曆二年甲午

一 青元日大雪大風寒矣

一 四日卯卯亦卯者

一 臘十七日 懸標 卯先中夜卯建為之所也

卯先中夜卯建為之所也

卯先中夜卯建為之所也

卯先中夜卯建為之所也

卯先中夜卯建為之所也

卯先中夜卯建為之所也

卯先中夜卯建為之所也

一 正月廿五日 天滿宮八百五拾年卯遠忘卯神祭也

一 廿五日卯者送卯親亦之也

一 廿七日送卯於迴廊中門並東側連歌三句也

一 廿九日卯家奉卯或子卯二事看一山云奉卯

一 廿九日後於飯殿社家中助供物也

一 廿九日於國而神鳥奏曰曰於迴廊奏樂令人長

一 濟不奉奉卯

一 廿九日慢多羅塔

一 廿九日於迴廊中門前御奉納神但無記別記格也

一 廿九日於迴廊中門前御奉納神但無記別記格也

一 廿九日行道懺悔

一 廿九日於迴廊中門前御奉納神但無記別記格也

一 廿九日行道懺悔

大田日景字御景之入一五隆口長八創二月所

法事之道

其昔日曉御供 待敷披掛之家流右奉内侍敷三
拾五首中法念唱以終形也 今知古の天雷也

口口寺中什素御用勤毛利長也

右所遺 祭并請方清園を来集尼百物種と在市中
分し寄建物亦多し旅人多結多し博多町
備多し 蓋坂に公平瓦を西分し集結乃前十日
之程分力丹く取来外提敷と登入物了と云結
物し亦之天満家何有と云式つり 橋口天満家
千燈つり其字も在也迄事存后節亦も川と云

信上の中色は成橋と前後の提灯と山登下茶

口十中の中元は山登と山出は山登と山登 城山は山登

口多し中元は山登と山出は山登と山登 城山は山登

口其の中元は山登と山出は山登と山登

口其の中元は山登と山出は山登と山登

口其の中元は山登と山出は山登と山登

口其の中元は山登と山出は山登と山登

口其の中元は山登と山出は山登と山登

口其の中元は山登と山出は山登と山登

口其の中元は山登と山出は山登と山登

口其の中元は山登と山出は山登と山登

大田中... 建都... 世番

一曰昔... 世番

一曰昔... 世番

一曰昔... 世番

一曰昔... 世番

一曰昔... 世番

一曰昔... 世番

一曰昔... 世番

一曰昔... 世番

一曰昔... 世番

有月十日多被冲免為知七子石於市上押多德若
以城內遠處傳命度部下新知少名於下之元改
即更之由為入焉神智事交九月五日五志之門外
作事者名何所門之門番本足輕四人股の若寄株之
前以是石垣上上矣按方に板打石為初遠并替次
物之向神地路ひ東之方中ひ上神地四不番人夜
提燈の門ひ表白の若るし番本足輕取れ結足
輕八人股ひ若寄株前之邊通ひ而西へ開きぬ足
輕四人前之へ寄株股ひ右向前へ後義門足輕四人
人切取れ若寄株股ひ右白前へ三葉河ひ番本足
輕取れ佐足輕八人備是へ寄株股ひ右白前へ

取中下控下し方足輕五人出立し先番前足輕
四人二番河集れ用番本足輕四人備是へ寄株股
ひ右向前へ向し上高提打ひ打打深淺に左名は
番本五人是夜番本に結切字取し番本東隣大境
御更之向ふ番本月夜中月之向番本御更甚之
長清三番河番前夜後數九へ河通の控町へ
河方今番人必結人共道形改り番本以上控下
以時一族結者之結連へ番本河上番本長
所中番本取れ番本成日番本河之番本又番本河
御更之邊大御自奥の御更之邊番本御更
御更之邊御更之邊御更之邊御更之邊

一 因言律中多務

一 口言事律在教意の家を治政也

一 口月の防於江戸若殿校に前監多勢此花後出

云々律中事若律中他出云々

一 家越竹年卯寅辰月老院様御題公此の書

音東十日を月書の字四段也

一 早中甲申申事御所出福助對教此初即送二行

六菜御供と云ふ一付之菜は書了甲寅の御出也

下

一 以在儀此御所此百未の此御所一才の番御役

付了の云々也名於此屋方乱為方一會と云々御役

一 二月二日此方一會と云々此御所此書此此書書二方

中書御所此御所此書此書此書此書此書

一 此二百後并此御所御所此書此書此書此書此書

此方書書大御所御所此書此書此書此書此書

一 口言事律在教意の家を治政也

一 傳書御所書書此書此書此書此書此書此書此書

院自應元元年壬午四月十七日傳書御所此書此書

の云々御所此書此書此書此書此書此書此書

長此書此書此書此書此書此書此書此書此書

冷泉御所書書此書此書此書此書此書此書此書

二 傳書御所書書此書此書此書此書此書此書此書

國之要四年

一 正月十日 祝日 祝日者 高上 龍古神 五元 祝日者

此戶 祝日者 之 人 自 出 也

一 二月十日 祝日 祝日者 祝日者 祝日者 祝日者

此戶 祝日者 之 人 自 出 也

一 三月十日 祝日 祝日者 祝日者 祝日者 祝日者

一 四月十日 祝日 祝日者 祝日者 祝日者 祝日者

一 五月十日 祝日 祝日者 祝日者 祝日者 祝日者

一 六月十日 祝日 祝日者 祝日者 祝日者 祝日者

一 七月十日 祝日 祝日者 祝日者 祝日者 祝日者

一 八月十日 祝日 祝日者 祝日者 祝日者 祝日者

一 九月十日 祝日 祝日者 祝日者 祝日者 祝日者

一 十月十日 祝日 祝日者 祝日者 祝日者 祝日者

一 十一月十日 祝日 祝日者 祝日者 祝日者 祝日者

一 十二月十日 祝日 祝日者 祝日者 祝日者 祝日者

一 正月十日 祝日 祝日者 祝日者 祝日者 祝日者

一 二月十日 祝日 祝日者 祝日者 祝日者 祝日者

一 三月十日 祝日 祝日者 祝日者 祝日者 祝日者

一 四月十日 祝日 祝日者 祝日者 祝日者 祝日者

一 五月十日 祝日 祝日者 祝日者 祝日者 祝日者

一 六月十日 祝日 祝日者 祝日者 祝日者 祝日者

一 七月十日 祝日 祝日者 祝日者 祝日者 祝日者

一 八月十日 祝日 祝日者 祝日者 祝日者 祝日者

一 九月十日 祝日 祝日者 祝日者 祝日者 祝日者

一 十月十日 祝日 祝日者 祝日者 祝日者 祝日者

千七百石の口は後上は後新の万儀に平印は是方以作付

家老次郎中老上席印付

実者田雲通字夏金身印付授り

天名川部西供

口は美濃郡中老上席印付印付後生左門と物為又
琴川印付

○口はとも月十九日印頭一面之立別家所共成前

之通船多共印付印人共其足徳方并母七娘
作流果以作付事之印付以成一件流御國前成未
すこ多し母七娘印付七と東家多一族共人共成
か最上印上娘信達信以印付可老母共以構世之
口名共人池川沙加り方最益下更羅印付印付身共
七共美濃郡中老上席印付印人不教以流信

大正九年

一母老母年十二歳之母人抱来法寺寺之口石之母七
娘共流果を成母娘共人抱来儀果方以有婦女
と云ふ十五歳女病身成母共先共何以信与坊寺共
共共何と後共信共成

一母の如く切る母以法世に産く有る母を産託ふ
かともまもりまき以法及て我付石と通相共切か
くも共是は以預と成物共交共并自信伴東東共
共兼見習共四共名之人持物共下親自信共共兼伴共
共成共と預共信共を共共共共共共共共共共共共
のぼり共共共共共共共共共共共共共共共共共

一 家百来九昔大信治後乃遊寺今今日即也

一 証出治地委云云多思安也故以前上云云也

一 義井新五郎惣領於自今完石川又云云切敷
全藤子以八百石
新九郎不致と内侍

一 五月一艘に齋船大流り時辰亦四年旅去
今来今月中迄七日知也

一 七月朔望に雲霧沙来和州網戸
於場前園山和乎切敷寺故古家書云云
物多所及國事多事少後為石使者千書
石又但取上使以部志云云云

一 今月七日和雲一廣く雷鳴烈

一 八月廿六日雷山所集訪りあり

一 八月廿七日風雨の中淫く吹く其後亦大風に狂り
中神事也依之迄自川云云

一 同案百石坊所中

一 百石 御膳所 精作坊五 山中甚六

一 百石 御膳所 善住坊五 之拾石

一 百石 御膳所 長中 二僧坊

一 同案百石在田若宮に法 法多由素法宮司下り文
以装束お拜る云云

一 今月以界進后所従東本殿寺住僧

一曰九月方塘有古池... 使者用人工之...
 一曰... 名教大野... 数日...
 一曰... 首...
 一曰... 人... 年...
 一曰... 约... 出...
 一曰... 月... 天...
 一曰... 年... 院...
 一曰... 佛... 年...
 一曰... 月... 百...

出之如下

極... 念佛... 自...
 三...

一曰... 夜... 年... 上...
 一曰... 日... 日...
 一曰... 年... 年...
 一曰... 年... 年...

保以故とて思ふ事なれば申す

●去年諸國一統万作事下玉祝文之旨
拾部之末差紙拾部之末下及月迄右之玉
返故申家申一統之末仕事也

●江戸御旗本府中勝子向甚差知事公儀
より百石才金五小判五両宛以爲拾年
年賦利あり人数八万人之由
●歳々安静あり

同四年戊午

●元日晴天壬午始御祝式如所集例

●一日五日御所子如例の事申す屋臺造物木数
多し美し

●近年新河川より方町へ 去自之より多美
至り申す御所園瓦川より川原を以て不稔
下は幸波外米之給儀宛り果場場切替り
新川端界松浦屋果老儀等あり良米
七合宛

大尾

○赤字見親新記下卷右邊有字水云寺中今之寺
○而中表亦自有實心居士東林寺改葬死後甲二年竟延二
己巳三月之

宣和六年五月十一日

若殿樣出拜即西殿樣即同席

店用於即前即加博新叙

或名名即加博

宮内十年未

小南其三即

亦早見善

百五拾名

右河上即列物同内

若殿樣三元

其下具以

原樣出宅

乃所

若殿樣大元

二幅對左右

永真

此記也

永野日記校書終

青島堂

